

家具類の転倒・落下・移動防止対策

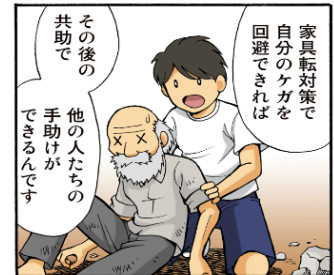
～ 備えあれば憂いなし ～

「家具転対策（かぐてんたいさく）」とは、地震の揺れでケガ等
をしないために、家具や家電などを固定したり、落下防止措置を
したりする、「家具類の転倒・落下・移動防止対策」の略称です。

家具転対策をしていないと、地震の時に家具類が転倒して、ケ
ガや火災、避難障害など様々な危険につながる可能性が大いにあ
ります。

それらを防ぐ家具転対策は、地震からご自身や家族を守るため
に、今からでもすぐにできる「自助」の第一歩です。そして、家
具転対策の効果でケガなどを防ぐことができれば、次に皆さんは、
隣近所や地域の方々と協力し、お互いに助け合う「共助」の行動
をとることが可能になります。

地震から大切な命を守るために、家具転対策を実施しましょう。



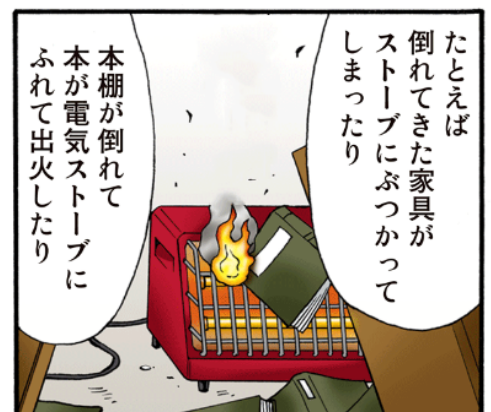
ケガだけではない。家具転対策をしていないと起こる危険

◆火災

地震が起こると、家具類の転倒・落下・移動によって火災が発生することがあります。
ストーブや水槽ヒーターなどの熱を発する器具に家具類が転倒等をした場合だけでなく、
ストーブ等に家具類の収容物（本棚の本など）が落下することでも、火災が発生す
る危険があります。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、都内で32件の火災が発生
しましたが、その多くが家具類の転倒・落下・移動によるものでした。また、東京都が
公表した首都直下地震の被害想定では、都内で最大約800件もの火災が発生すると想
定されています。

平成27年4月の第21期火災予防審議会（地震対
策部会）では「地震火災による人的被害の軽減方策」
として、家具転対策が地震時の出火防止としても有効
であり、火災による死者数の減少に大きく寄与すこと
が示されました。火災による被害を減らすためにも、
家具転対策は絶対に欠かせません。



<東日本大震災での出火例>

- 本棚が倒れ、本が電気ストーブに落下し出火
- 電気スタンドが倒れ、布団に接触し出火
- 落下物が、家電製品のスイッチに接触し、スイッチが入ることにより出火 など

◆避難障害

出入口付近に家具転対策を実施していない家具を配置してしまうと、地震により、転倒した家具が扉や窓を塞ぎ、逃げられなくなることがあります。

首都直下地震等の大規模地震が発生した場合、こうして室内に閉じ込められてしまうと、そのまま長時間救出されない可能性があります。避難できない状況で、自宅

や、近隣の住宅等で火災が発生すると、火災に巻き込まれる可能性が高く、非常に危険です。

避難障害を起こさないためには、出入口や避難経路に家具を置かないことや、家具を置く向きを工夫したりする家具等のレイアウトも非常に大切です。



どうやって家具転対策をしたらいいの？

一言で家具転対策といっても、その方法は様々です。家具転対策と聞いてすぐ頭に浮かぶのは、金具などを使用し、家具と壁をネジ留めするようなものかもしれませんが、ネジ留めが不要な対策器具を組み合わせる方法もおすすめです。例えば、タンスなどの場合、つっぱり棒とストッパー式（もしくはマット式）を組み合わせることで、L型金具と同等の効果を得られます。

それ以外にも、大きなホームセンターなどに足を運ぶと、穴を開けたりすることなく設置し、固定できる器具も多く販売されています。対策を行う家具の形状や重さに合った器具を選び、器具の効果が十分に発揮できるよう、正しく設置することが重要です。

